

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520738

研究課題名(和文) 地方寺院に伝来した中世聖教に関する史料学的研究

研究課題名(英文) Research into historical data concerning medieval Buddhist teaching spread to regional temples

研究代表者

厚谷 和雄 (Atsuya, Kazuo)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80143535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中世地方寺院に伝来した聖教類としては、質・量ともに優れた中世聖教群と評価できる萩原寺所蔵地蔵院聖教を素材とし、その本来あるべき姿への復元のため、聖教に関する史料学構築を目的としたもので、本研究に於ける成果の概要は、以下の通りである。

地蔵院聖教について悉皆調査を行い、江戸時代前期までのデジタル撮影を完了するとともに、平安時代後期より安土桃山時代までの聖教類について、函号・名称・形状・員数・本文奥書等・備考・撮影番号等の項目で構成する『萩原寺所蔵地蔵院聖教撮影目録』を刊行し、地蔵院聖教に関する史料学的研究の成果である「萩原寺所蔵地蔵院聖教の概略」「萩原寺中興真恵年譜稿」を附載した。

研究成果の概要(英文)：This research investigates the Buddhist sacred book Jizoin-Syogyo which Hagiwara-ji owns, and studies history, religion, and culture. In order to use Jizoin-Syogyo effectively, the detailed list used as the foundation is created. Jizoin-Syogyo was photographed for research. It clarifies the religious activity of the local temple of the Middle Ages. Therefore, Jizoin-Syogyo was investigated and studied. For Seikyo ranging from the late Heian period to the Azuchi Momoyama period, it was published the "Hagiwara-ji-jizouin-Syogyo-Satsuei-Mokuroku". The list consists of a box number, a name, a shape, number, the colophon, a remarks, a photography number.

研究分野：日本史

キーワード：日本史 中世史 聖教 印信 血脈 密教 萩原寺 四国

1. 研究開始当初の背景

現在の中世聖教ないし聖教群に関する研究には、おおまかに言って二つの問題点がある。一つは、地方寺院に伝存する聖教に対する研究が不十分なこと、今一つは、聖教生成の契機として法会や修法が重要視されているのに比して、伝受があまり注目されておらず、複数の法流の兼学という中世の実状を反映したものになっていないことである（後者は、中央の大寺院における国家的な法会・修法に関心が集中していることと同根なので、結局は前者がより大きな問題といえるかも知れない）。本研究は、この問題点を二つながら克服することを目指している。

中世史の研究素材として、寺院に伝来した文献史料（寺院史料）は非常に大きな役割を果たしてきたが、研究者の関心は、古文書に厚く、量的に歴大な宗教活動に関する史料（聖教）に薄かった。この状況は、文化財調査の成果としての各種目録の公刊や、永村眞氏に代表される寺院社会史研究の進展によって大きく変化したが、研究の対象は京畿の大寺院に伝来する聖教に集中し、地方寺院に伝存する聖教に対する関心は希薄であったと言わざるを得ない。この問題点は、阿部泰郎氏を中心とする大須真福寺所蔵聖教の研究等により、徐々に改善の方向に向かっているが、さらなる研究の蓄積が不可欠である。香川県観音寺市に所在する萩原寺（真言宗大覚寺派）に伝存する地蔵院聖教（約 5000 点）は、地方寺院に伝来したもののなかで質・量ともに優れた聖教群であり、上記の問題点を克服するための格好の素材だといえる。

また、ここ 10 年余における聖教を中心とする寺院史料を対象とした重要な研究成果としては、永村眞氏『中世寺院史料論』（吉川弘文館、2000 年）および上川通夫氏『日本中世仏教史料論』（吉川弘文館、2008 年）の両書をあげることができよう。両書とも基調は、種々の顕教法会や密教修法との関わりで聖教を捉えようという姿勢にある。伝受を意識したものとして、永村氏の「印信」試論一主に三宝院流印信を素材として一があって重要な指摘がなされているが、基本的には三宝院流の枠内にとどまり、多様な法流の兼学という中世の実状を十分に反映したものにはなっていない。そのため、印信を中心に据えて複数の法流にわたる伝受の様相を解明することが必要なのである。そして、東密諸流を学んだ真恵（1364～1449）とその弟子慶恵（1412～1483）を中心に形成された萩原寺地蔵院聖教は、このような問題の解明に最適な素材だと考えられる。

研究代表者厚谷および研究分担者末柄を中心とする東京大学史料編纂所内の研究グループは、1988 年から萩原寺所蔵地蔵院聖教の調査を開始し、20 年余に及ぶ調査

の結果、全体の 8 割程度について調書を採録した。これを前提に、2008 年度より科学研究費補助金（基盤研究(C)「萩原寺聖教の調査にもとづく中世地方寺院の宗教活動に関する研究」研究代表者厚谷、研究期間 2008～2011 年度、以下先行科研と記す）の交付を受け、中世の地方寺院における宗教活動の様相を明らかにするとともに、同聖教を歴史・宗教・文化の資料として有効に活用する基盤を形成することを目的に、研究を行ってきた。具体的には、同聖教から萩原寺を中心とする西讃・東予地域における宗教活動や京畿の大寺院との交流の様相を明らかにすること、および学界・社会の共有財産（研究の基盤・文化財管理のための台帳）となる、正確で詳細な目録の作成を課題とした。この間の調査・研究の進展により、明治以降、同聖教について整理が施され、年代や内容・形態の類似したものを集めて括るなど、本来あるべき姿に重大な変改が加えられており、これが今後の研究の進展に大きな障害として存在することが明らかとなった。従って、同聖教をさらに有効に活用するためには、史料学的研究に基づく原秩序の復元が喫緊の研究課題であると認識するに至ったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中世に興隆した地方寺院に伝わる聖教を真言密教修学の成果として捉え、その機能にしたがって原秩序を復元し、史料群としての構造を明確化することにある。言い換えれば、地方寺院の中世聖教に関する史料学を新たに構築せんとするものである。

聖教が作成・書写される最大の契機は、師匠から弟子への法の伝受にある。聖教とは、師資相承に伴って集積された密教修学の証跡であった。法の授受の中核には伝法灌頂が位置し、弟子の習得を証明するために印信という文書が発給される。したがって、複数の法流の兼学が常態であった中世において、聖教は印信を中心に法流ごとの纏まりをもって保持されるべきものであった。以上を念頭に置き、近代に入って秩序が損なわれた萩原寺所蔵地蔵院聖教という聖教群について、原秩序の復元を試み、中世地方寺院における修学の実相の解明につなげたいと考えている。具体的には、以下の二つの課題を設定する。

(1) 詳細な聖教目録の公刊、全点の写真撮影、関連史料の調査

先行科研において、萩原寺所蔵地蔵院聖教について全点の調書の採録、および室町時代前期（途中）までの聖教についてのデジタル撮影を完了した。これに依拠し、2012 年度の末には『萩原寺地蔵院聖教撮影目録』（平安～室町前期）を刊行した。以上の成果の継承・発展をはかるべく、本研究においても、史料の保全と公開を見据えて、室町時代前期から同後期の作成にかかる聖教についてデジタル撮影を行い、双方をあわせて 16 世紀中葉までの聖教全点のデジタル画像を整備することを目指す。さらに、これから蓄積

を進めるデジタル画像と採録済みの調書とを活用し、最終年度には『萩原寺地蔵院聖教目録』（仮題）を刊行する。このような基礎的な作業こそが、上に記した(1)の研究の直接的な前提をなすものであることは言うまでもあるまい。なお、同寺から流出した若干の聖教が、香川県立ミュージアム（高松市）・佼成図書館（東京都杉並区）などに所蔵されていることを確認しており、これらについても適宜調査を行う。

(2) 萩原寺所蔵地蔵院聖教の原秩序の復元、印信を中心とする真言聖教の史料学的研究
地蔵院聖教の中核は、同寺中興真恵が蒐集あるいは伝受した聖教であった。これら東密の諸流を伝える聖教は、若年より示寂に至るまでの真恵の修学の成果・精髓だが、その中心には印信があった。したがって、印信を中心に据え、各種聖教の内容・形態（法量・料紙・筆蹟など）を詳細に比較検討して、所伝の脈絡に沿って整理し直すことで、ある程度まで原秩序の復元が可能だと考えられる。なお、先行科研によって、真恵の伝受した諸流について、きわめて簡略ながら、見取り図を示すものともいえる真恵自身の置文（江戸時代前期の写）を、萩原寺の本山にあたる京都市大覚寺に見出し、調査研究を行ったことが、この復元の前提条件となっている。

また、印信自体についての研究を深めることで、復元の精度を高めたい。すなわち、真言聖教としての印信の体裁および変遷を解析するとともに、古文書としての様式および機能論的分析をも行う。さらに、印信生成の具体相と付帯聖教類の解析に及び、印信の史料学ともいべきものを確立したい。その方途のひとつとして、萩原寺に伝来する印信類（印明・紹文・血脈）原本や、「諸流灌頂秘蔵抄」などの既刊の印信集所載印信類の入力を行い、調査研究のツールとなる印信データベースを構築し、その有効性を高める方法を検討する。

3. 研究の方法

(1) 萩原寺への出張調査・撮影：これまでよりも調査の日数・人数を増加させ、年2回6日間6人強の体制で調査を行う（原本調査班・撮影班＋史料修補担当者）。原本調査班は、真恵が授受に関わった印信類について精細な調査を実施するとともに、撮影の前提として室町時代後期の聖教の再点検（年代比定の確認、調書の採取漏れの補充。室町時代中期までの聖教については、先行科研期間中に完了した）を進める。撮影班は、室町時代前期以降の聖教についてデジタル撮影を行う。なお、2回のうち少なくとも1回は史料修補担当者を帯同し、撮影困難な史料（甚大な虫損や朽損、糊剥がれ）について応急処置を施す必要がある。

(2) 調書データの入力・校正：原本調査によって作成した真恵が授受に関わった印信類に関する調書について、データを入力す

るとともに、先行科研および本研究によって撮影したデジタル画像によって確認を行う。また、先行科研によって入力した全点の調書データのうち、室町時代前期の分についても、デジタル画像によって確認を進める。そして、後者をもとに目録の原稿の作成を行うことになる。

(3) 地蔵院聖教の原秩序の復元、印信を中心とする真言聖教の史料学的研究：印信を中心に、真恵授受の諸法流に対応する聖教を見極め、室町中期以降における利用や明治以降の整理により、結果として失われた所伝時における聖教の秩序を復元することを試みる。具体的には、原本調査の成果と、デジタル画像との照合によって、内容・形態（法量・料紙・筆蹟など）を詳細に比較検討することで、直接に関連する聖教を見出し、再度原本に就いて確認を行うという手順を踏むことになる。また、法流の同定に際しては、地蔵院聖教中の印信類（印明・紹文・血脈等）原本を解読し、その本文等を入力するとともに、既刊流布の印信集所載印信類の入力を行い、印信を調査・研究するためのツールともいべき印信データベースを作成する。

(4) 研究成果報告書の作成：2014年度の末には、研究成果報告書を刊行する。そこに盛り込むべき主要な研究成果は、真恵の所伝にかかる萩原寺地蔵院聖教の復元の結果を示し、それに基づく地方寺院に所在する中世聖教に関する史料学の構築に資する論考、萩原寺地蔵院聖教目録（仮題）となる。

4. 研究成果

本研究は、(1) 詳細な聖教目録の公刊、全点の写真撮影、関連史料の調査、(2) 萩原寺所蔵地蔵院聖教の原秩序の復元、印信を中心とする真言聖教の史料学的研究を目的とした。以下、この課題に即しながら、研究成果の概要を記すことにする。

(1) 詳細な聖教目録の公刊、全点の写真撮影、関連史料の調査

① 各年度において、2回ずつ、6日間程度、萩原寺に出張して、聖教の調査を実施し、撮影の前提作業となる江戸時代までの聖教類についての再整理作業及び安土桃山時代までの聖教類のデジタル撮影を完了し、改めて同時経蔵内を再調査した。その結果、経蔵2階西側等の江戸時代版本類を収める慳貪箱の中に、目録収載対象となる聖教を新たに発見するに到り、追加調査と補充撮影を行う必要が生じた。このため研究費の繰越申請を行い、2015年度に1回の調査を実施し、目録収載対象となる聖教類68点について、調書の作成とデジタル撮影を完了するとともに、江戸時代前期までの聖教のデジタル撮影を終了した。

② 各年度継続して、既存調書及び再整理作業に伴う補充調査の成果に基づき、寸法・紙質等の入力を行うとともに、印信類についての原本調査の結果をデータベースに反

映させ、これを先行科研及び本研究によって撮影したデジタル画像により確認作業を行うとともに、地蔵院聖教の関連史料と考えられる聖教類について、佼成図書館をはじめ、個人所蔵・古書肆刊行の目録類について調査を行い、安土桃山時代までの詳細な目録の原稿を作成し、デジタル撮影が完了し、公開が可能となった平安時代後期から安土桃山時代までの聖教について、「萩原寺所蔵地蔵院聖教撮影目録」(函号・名称・形状・員数・本文奥書等・備考・撮影番号等の項目で構成)と題して公刊した。

(2) 萩原寺所蔵地蔵院聖教の原秩序の復元、印信を中心とする真言聖教の史料学的研究
真恵がその授受に関わった印信類を中心に精細な原本調査を行うとともに、撮影の完了したデジタル画像、関連史料の調査結果を反映させた調書・印信データベース等を活用することで、平安時代後期より室町時代後期にいたる聖教類に分析・検討を加え、これらの研究成果に基づき、「萩原寺所蔵地蔵院聖教の概要」「萩原寺中興真恵年譜稿」を作成し、地蔵院聖教の原秩序復元の基盤となる、『萩原寺所蔵地蔵院聖教撮影目録』に附載した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計1件)

東京大学史料編纂所萩原寺所蔵地蔵院聖教調査グループ(厚谷和雄ほか42名)、萩原寺所蔵地蔵院聖教撮影目録、2016年、221頁

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

厚谷 和雄 (ATSUYA KAZUO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80143535

(2) 研究分担者

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70251478

(3) 連携研究者

山口 英男 (YAMAGUCHI HIDEO)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40182456

石上 英一 (ISHIGAMI EIICHI)

東京大学・史料編纂所・名誉教授

研究者番号：40092134

坂本 正仁 (SAKAMOTO MASAHIRO)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：00235186